

2015年11月2日

『ザ・プレゼンテーション』批判、あるいはミーメーシスについて
人文社会系・津崎良典 (tsuzaki.yoshinori.gn@u.tsukuba.ac.jp)

① 講義関連ポスター「"The Presentation" 「人に伝わる研究プレゼンテーションを学ぶ」

『新英和大辞典』（研究社）の項目「the」の説明：

限定用法としての意味：「典型的な、真の、随一の」

用例：「This is the drink for hot weather. これこそ暑い時の格好の飲み物だ。」

総称用法としての意味：「...なるもの、...というもの」

用例：「The dog is a faithful animal. 犬は忠実な動物である。」

『大辞泉』（小学館）の項目「まねぶ」の説明：「「まねぶ」と同語源」

『大辞泉』（小学館）の項目「まねぶ」の定義：「まねをする」

② 独創的であるために人は模倣^{まね}をせずに創造すべし？

『岩波哲学・思想事典』（岩波書店）の項目「天才」の説明：「天才論が真の展開を見たのは18世紀に入ってからで、そこではなによりも「創造」「独創性」そして「想像力」が問題となった。」

③ 「模倣 (imitation)」と何か

「古代人の模倣 (imitation des anciens)」；「自然の模倣 (imitation de la nature)」

④ 「ミーメーシス」とは何か

西洋古典学者・藤沢令夫の訳語「描写」、美学者・今道友信の訳語「模倣的再現」、美学者・青山昌文の訳語「本質的なものの強化的な再提示・再現・再生」

模倣 ≡ 再現 (représentation) ≠ 模写 (copie) (そっくりそのままに、全てを無差別にコピーすること)

⑤ プラトン (BC427-BC347) ——世界外在的ミーメーシス論者

【資料1】

プラトン『国家』下巻、藤沢令夫訳、岩波文庫、1997³¹年、307-331頁：

「ここに三つの種類の寝椅子があることになる。一つは本性（実在）界にある寝椅子であり、ぼくの思うには、われわれはこれを神が作ったものと主張するだろう。〔.....〕 つぎに、もう一つは大工の作品としての寝椅子。〔.....〕〔そして〕 もう一つは画家の作品としての寝椅子だ。〔.....〕 神は〔.....〕 真にあるところの寝椅子の真の作り手となることを〔.....〕 お望みになって、本性（実在）としてのただ一つなる寝椅子を作り出されたのだ。〔.....〕 この神のことを、われわれは、その寝椅子の『本性（実在）製作者』、または何かこれに類した名で呼ぶことにしようか？」

「少なくとも正当な呼び方であることはたしかですね」と彼は言った。〔.....〕

「では大工は、何と呼んだらよいだろう。寝椅子の製作者と呼ぶべきではないか？」

「ええ」

「では画家もやはり、そのような事物の製作者であり、作り手であると呼ぶべきだろうか？」

「いいえ、決して」

「すると君は画家のことを、寝椅子の何であると言うつもりなのかね？」

「わたしとしては」と彼は言った、「こう呼ぶのがいちばん穏当ではないかと思います——先の二者が製作者として作るものをミーメーシスする者である」と

「よかろう」とぼくは言った、「すると君は本性(実在)から遠ざかること第三番目の作品を産み出す者を、ミーメーシスする者と呼ぶわけだね？」

「ええ、その通りです」と彼。

「してみると、悲劇作家もまた、もし彼がミーメーシスする者であるとするならば、そうだということになるだろう——つまり、いわば真実(実在)という王から遠ざかること第三番目に生まれついた素性の者だ、ということになるだろう。そして他のすべてのミーメーシスする者もまた同じことだ。[.....]」[.....]

「こうして、いまやわれわれは、正当な理由をもって作家(詩人)をとらえ、彼を画家の片割れと規定することができるだろう。なぜなら、真理とくらべれば低劣なものを作り出すという点でも画家に似ているし、また魂の同じく低劣な部分と関係をもち、最善の部分とは関係をもたないという点においても、彼は画家にそっくりだからだ。

このようにしてまたわれわれは、いまや、一国が善く治められるべきならば、その国へ彼を受け入れないことの正当な理由をもつことになるだろう。」(597b-605b)²

⑥ アリストテレス (BC384-BC322) ——世界内在的ミーメーシス論者

【資料2】

アリストテレス『詩学』、松岡仁助・岡道男訳、岩波文庫、1997年、24-25頁：「ミーメーシスをする者は行為する人間をミーメーシスするのであるから、これらの行為する人々はすぐれた人間であるか、それとも劣った人間でなければならない。[.....]したがって(ミーメーシスの対象となる)行為する人々は、わたしたちよりすぐれた人間か、より劣った人間か、あるいはわたしたちのような人間であるか、のいずれかである。それは画家たちがミーメーシスした人間の場合に似ている。ポリュグノースはよりすぐれた人間を、パウソーンはより劣った人間を、ディオニューシオスはわたしたちに似た人間を描いたからである。[.....]たとえばホメーロスよりすぐれた人物を、クレオポーンはわたしたちと同じような人物を、パローディアーは最初につくったタソス出身のヘーゲーモンと『デイリアス』の作者ニコカレースはより劣った人物をミーメーシスした。[.....]喜劇が現代の人間より劣った人間のミーメーシスを狙うとすれば、悲劇はそれよりすぐれた人間のミーメーシスを狙うのである。」(1448a1-18)

¹ 藤沢令夫訳では、「真似る(描写する)」となっているが、ここは、本講義の鍵語である「ミーメーシス」というギリシア語が使用されている箇所であり、その意味で本講義の理解にとって決定的に重要なので、ギリシア語原文をそのまま使用することにする。

² プラトンの著作については、一番古い活字本であるステファヌス版全集の頁数と頁のなかの段落付けで出典を表示するのが習わしになっている。